

(2) けいれんを起こした

ワンポイントアドバイス



あわてて抱き上げてはいけません

お子さんのけいれんに気付いたら、あわてて抱き上げたり、ゆすったり、叩いたりしないでください。また、呼吸がしやすいように衣服をゆるめ、吐いたもので窒息しないように、顔を横向きにしてあげてください。

口の中にもものを入れるのは、誤った処置です

舌をかまないようにと、口に指やタオル、割り箸などを入れないでください。舌を奥に押し込んで窒息を起こす危険があります。

けいれんが続いた時間を計りましょう

けいれんが起きた時間から治まった時間をチェックし、けいれんの持続時間を計っておくとよいでしょう。

けいれんが治まったら、必ず体温を計りましょう

高い熱が出たときに起こる「熱性けいれん」は心配ありませんが、熱が38度以下で起こるけいれんは、注意が必要です。そのため、けいれんが治まったら、必ず体温を計るようにしてください。



3

子どもの病気 あわてず対処が基本です

症状に応じた対処法

●熱が38度以上あり、けいれんが1回程度で、目を開けて呼びかけに反応したり、泣いたりしている

●赤ちゃんの月齢が6ヵ月未満
●はじめてけいれんを起こした

●けいれんが10分以上続く
●けいれんが治まった後、呼びかけに応じず、意識が戻らない
●断続的に2回以上けいれんが起こる
●けいれんが右半身、あるいは左半身に強い(左右対称でない)
●けいれんとともにおう吐を繰り返す
●熱が38度以下でけいれんを起こした

「はい」が一つもない

「はい」が一つ以上

様子を見て、昼間の診療時間内に、かかりつけ医などを受診しましょう



夜間休日救急診療所を受診しましょう



救急車を呼びましょう

